



青年海外協力隊
山本 康未さん

42

ボリビアで陶芸を伝承

南アメリカにあるボリビアで青年海外協力隊として、日本の陶芸手法を指導されている山本康未さん。

大学で国際文化を学んだ後、市内で陶器の仕事に携わってこられた山本さんは、ご自身が学んだことや経験を生かし、日本の陶器やそれらにまつわる文化の伝承にと、現在ボリビアの国立芸術学院で講師として活躍中です。

ボリビアは、南アメリカの中部に位置する人口約1千万人の国で、アンデス山脈やアマゾンの熱帯雨林があり、天然資源が豊富な国として知られています。

この国では、家庭用食器としての陶器は高価で一般的ではありません。そこで、日本の高度な陶芸技術やデザインを導入し、家庭用食器の普及を図るため、今年6月から2年間、技術協力されることになりました。

学生時代に知人の紹介で陶芸サークルに入ることがキッカケとなり、その後陶芸教室でのアルバイトで、陶芸という素晴らしい文化を人に伝える喜びを知ったことが今回の動機になったという山本さんですが、実は今回が初めての海外滞在だそうです。生活に関しての不安に加え、伝えたいことが現地の人にうまく伝わるかなど、いろいろ不安もあるそうですが、それよりも、現地の人とのふれあいや、自分が伝えたものが現地で商品化されたら、という期待の方が大きいとのこと。

「日本の陶器は高い技術があると思います。それを自分なりにうまく伝えられたらと思います。そして、日本にはないボリビアの感覚を自分の中に取り入れたいです。」との決意を持ってボリビアに向かわれました。

はるか遠い南米の地で、日本が誇る産業、文化を伝える山本さん。現地で、そして貴重な体験を経たその後の人生での活躍に期待です。

アイデア蚊遣り器、夏を彩る

～いまどき、しがらき、かやりき展～

蚊 取り線香を燃やすときの必需品である蚊遣り器。現在では、その機能だけでなく、夏を演出するインテリアとして人気があります。陶芸の森産業展示館で、「いまどき、しがらき、かやりき展」が開催され、信楽焼のアイデアを凝らした様々な蚊遣り器が展示されています。会場には、いろいろな動物の形をしたかわいいうつものや、洋間にも似合うモダンなものなど、従来のイメージではない蚊遣り器が多数展示されています。また、扇子や麻織物など県内の伝統工芸も並び、会場全体に「近江の夏の風物詩」が展開されています。同展は9月23日まで開催されています。



▲ユニークな蚊遣り器が並ぶ会場

地域の歴史、特色を学習

～あいの土山に学ぶなでしこ塾～

土 山地域の歴史や特色を学ぶ「なでしこ塾」が8月4日、土山町の永雲寺で行われました。なでしこ塾は、土山小学校の先生に地域を知ってもらい、授業に生かしてもらおうと同校同窓会の方が企画されたもので、夏休みの期間を利用して年1回行われています。3回目となる今回は、土山地域や市内にある城址と土山茶についての研修が行われました。土山茶の研修では、お茶に親しんでもらおうと、実際に茶室でお茶をいただく機会が設けられ作法も学習、土山の茶文化に触れる機会となりました。



▲熱心に講義を聴く皆さん

命の大切さ胸にきざむ

～人権教育研究大会～

一人ひとりの人権が尊重され、安心して生き生きと暮らせる社会を実現するため、8月22日、碧水ホールで甲賀市人権教育研究大会が開催されました。この日は、地域で活動される和太鼓探検倶楽部と伴谷小学校から、取り組みの報告が行われました。また、和太鼓作りに取り組んでおられる太鼓屋六右衛門さんが、「太鼓といのち」と題し講演。自らの経験に基づき、命の大切さ、人と人とのつながりの大切さについてお話いただきました。大会前に行われたワークショップ「親子でミニ太鼓を作ろう」では13組の親子が参加、楽しみながら太鼓を作るとともに、命の大切さを学ぶことができました。



▲心に響く太鼓屋六右衛門さんの講演

正しい自転車の乗り方、全国で競う

～交通安全子ども自転車全国大会に大原小が会場～

交通安全子ども自転車全国大会が8月5日、東京都で行われ、大原小学校の児童の皆さんが滋賀県代表として出場しました。この大会は、自転車の正しい乗り方と、交通安全の知識を競うもので、同校自転車クラブの皆さんは、7月に行われた県大会で大会8連覇を果たし、今回の全国大会出場となりました。選手の方々は、全国大会という緊張感と闘いながらも、学科テスト、技能テストともに健闘、これまでの練習の成果を発揮し力を出し尽くすことができました。



▲実技テストに挑む大原小選手

全国の強豪校が集結、レベルアップ図る

水口サマーサッカー研修大会

全国の高校、大学のサッカー部が集まり、試合を通して技術の向上を図る水口サマーサッカー研修大会が、8月14～17日に行われました。同大会は、鹿深サッカー協会の主催で行われているもので、今年で35回目を迎えます。今年も水口スポーツの森など8会場、50チームにより市長杯、協会長杯が争われました。選手は、猛暑の中全力でプレーし、技術や連係など細かい部分を確認することができました。また、15日には、開会式が行われ、各校の交流や情報交換が行われました。式典には中嶋市長も出席、「この大会での経験を生かし、ここからJリーガーが誕生することを期待しています。」と挨拶しました。



▲熱戦が繰り広げられた大会



▲昨年度市長杯優勝の大阪体育大学に記念品を贈る中嶋市長